

宇都宮大学における「ブレンディッド・ラーニング」の取り組み Blended learning initiatives at Utsunomiya University

○松井 宏之*

MATSUI Hiroyuki

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行によるコロナ禍において、教育機関では従来どおりの対面授業の実施が困難となり、オンライン授業への移行が余儀なくされた。ポストコロナにおける教育の議論・取り組みが進むなかで、オンライン授業と対面授業それぞれの利点が認識されるようになり、両者を組み合わせたハイブリッド型授業が注目されるようになった。代表的なハイブリッド型授業として、対面授業とオンライン授業を同時に行うハイフレックス型授業、対面授業とオンライン授業を組み合わせるブレンド型授業がある（京都大学高等教育研究開発推進センター, 2020）。ブレンド型授業での学習形態がブレンディッド・ラーニングと言われる（瀧川, 2020）。

宇都宮大学では、文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」（令和2年度）に、ブレンディッド・ラーニングの導入、デジタル学修コンテンツの充実と対面授業での活動の質的深化を目指す「ブレンディッド・ラーニングの推進と多面的評価による自律的学修者の育成～LMSと連携したe-ポートフォリオの活用を通じて～」とする取り組みが採択された。これを受け、令和4年度から令和9年度までの第4期中期計画において、ブレンディッド・ラーニングの推進が掲げられ、令和7年度までにすべての専任教員が一つ以上の担当科目でブレンディッド・ラーニングを取り入れることとなった。

2. 宇都宮大学におけるブレンディッド・ラーニング

宇都宮大学ではブレンディッド・ラーニングを反転授業と同意として、毎回あるいは予め定めた数回の事前学習として実施する形態、15回で構成される2単位授業においては半分にあたる最大7回までをオンデマンド型のオンライン授業とする形態のいずれかが推奨されており、授業の効果を担保するため、実施に際しては、次の要件を定めている。

- （オンラインでの）メディア授業が面接授業に相当する教育効果を有すると認められる。
- アクティブ・ラーニング等の手法を用いた面接授業に参加する上で、必須となる知識への理解を目的とする事前学修である。
- 1回分の対面授業で得られる知識に相当する内容を備えたものである。

なお、対面授業での予習と反転授業／ブレンディッド・ラーニングにおける事前学習の相違として、瀧川（2020）は反転授業での事前学習は、列挙された内容の学習ではなく、「教師による学習内容の解説と丹念な設計」が求められるとしている。

* 宇都宮大学農学部 School of Agriculture, Utsunomiya University

キーワード：オンライン学修、学修支援システム、教育効果、反転授業

3. ブレンディッド・ラーニング導入に向けた宇都宮大学の取り組み

宇都宮大学では、毎年、全学 FD (Faculty Development) の日を設け、テーマを設定し、実施している。ブレンディッド・ラーニングの導入に向け、令和3年度は「教育のデジタル化・オンライン化の次なるステップ ブレンディッド・ラーニングの推進に向けて」をテーマと定め、専門家2名の外部講師による講演、先行的に試行された教員有志による事例紹介が行われた。筆者が所属する農学部においても、令和4年2月に、学部教員による事例紹介、全学 FD の講演のなかで外部講師から紹介された授業を担当されていた外部の大学教員による講演を実施し、ブレンディッド・ラーニングに関する理解の醸成が図られた。明くる令和4年度も、全学 FD の日のテーマを「ブレンディッド・ラーニングの実践×ループリックの導入～学習成果の可視化を目指して～」として、FD が企画・実施された。

4. ブレンディッド・ラーニングの導入状況

令和4年度より専任教員の実施状況が集計され、令和4年度：34%，令和5年度：29.6%，令和6年度：100%と推移しており、達成指標を達成した状況となっている（宇都宮大学）。ブレンディッド・ラーニングは、実施する日程（授業回）がシラバスに明記され、実施されている。

5. ブレンディッド・ラーニングに関する雑感

ブレンディッド・ラーニング／反転授業は、事前学習を前提として授業が計画・実施される。対面授業においても、授業の教育効果の向上、受講者の理解の深化には予習が望まれるもの、ブレンディッド・ラーニングにおける事前学習は、よりその重要度を増す。一方、受講者である学生への周知を徹底しないと、他の授業の予習と同様と認識されやすい。事前学習の実施率が低いとブレンディッド・ラーニングは成立しない。そのため、事前学習を徹底するためには、対面授業時に事前学習の成果を確認できるような取り組みの導入が必要となる。また、経年的に事前学習用の教材を使用しても、学年により効果が異なるとの指摘もあることから、教材の見直し等も必要であることに留意しておく必要がある。

6. おわりに

宇都宮大学におけるブレンディッド・ラーニングの取り組みについて紹介した。導入当初は、ブレンディッド・ラーニングと反転授業の定義について、学内で議論があったものの、現在は同一のものとして認識されるようになった。本稿が教育手段について検討する際の一助となれば幸いである。

引用文献

- 1) 京都大学高等教育研究開発推進センター（2020）：Teaching Online@京大「ハイブリッド型授業とは」，<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/hybrid.php> (accessed 2024/5/7)
- 2) 濵川幸加（2020）：ブレンド型授業との比較・従来授業における予習との比較を通じた反転授業の特徴と定義の検討、日本教育工学会論文誌，44(4)，561-574.
- 3) 宇都宮大学：宇都宮大学アクションプランに基づく年度計画と実績、<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/duties.php> (accessed 2024/5/7)